

*Chrysolina exanthematica* (Wiedemann, 1821)

## 日本産ヒゲブトチビシデムシ類要説 (III)

保科英人

〒 910-8507 福井県福井市文京 3-9-1 福井大学教育学部

## Notes on the Subfamily Coloninae of Japan (III)

Hideto HOSHINA

ヒゲブトチビシデムシ要説 (II) では日本・台湾・朝鮮半島産タマキノコムシ科ヒゲブトチビシデムシ亜科全種のリストの掲載、重要分類形質の概説、属および亜属への検索表の添付、そしてニセヒゲブトチビシデムシ属 *Colonellus* を解説した (保科, 2016b)。本稿 (III) からヒゲブトチビシデムシ亜科ヒゲブトチビシデムシ属 *Colon* の種ごとの説明を行う。なお、本稿 (III) で扱うのは *Colon* 属のうち *Tricolon* 亜属と *Colon* 亜属である。

**Colon 属 *Tricolon* 亜属****エノモトヒゲブトチビシデムシ *Colon* (*Tricolon*)  
*enomotoi* Hoshina, 2009 (図 1-9)**

*Tricolon* 亜属は Peck & Stephan (1996) が北米大陸から記載した比較的新しい亜属で、構成種は 2 種のみとされていた。Hoshina (2009) が本種を新たに *Tricolon* 亜属に加えたが、未だ全世界で 3 種の小亜属に過ぎない。

前号要説 (II) の検索表に記した通り、*Tricolon* 亜属の触角第 8 節は明らかに第 9 節より小さく、先端 3 節が球桿部を構成する (要説 (II) を参照)。前脚附節は単純な棒状で横に広がらない (図 2, 3)。

エノモトヒゲブトチビシデムシは体長 2.3 mm で背面は僅かに赤みを帯びた茶色。前胸背板の幅は上翅よりやや広く (図 1)、それゆえ体全体が日本産の他のヒゲブトチビシデムシと比較すると丸っ

こく見える。前胸背板の形は饅頭形で (図 1) 性的二型はなく、それぞれの点刻はつながらず独立している。前脛節、後脛節、後脛節いずれも単純で特に目立った特徴はなく、また性的二型も見られない (図 2-5)。後胸腹板中央五角形部分の点刻は小さくて疎 (図 6)。雄交尾器の腹側および背側から見た中央片に対する側片の長さは他の日本産ヒゲブトチビシデムシと比較すると長め (図 7, 8)。側片の毛は疎で主に背側に生え、腹側はほぼ無毛 (図 9)。

なお、前胸背板と上翅の幅云々については Peck & Stephan (1996) には該当記述がない。したがって、上翅よりも前胸背板がやや幅広いの形質がエノモトヒゲブトチビシデムシの種の特徴なのか亜属の特徴なのかは判断しがたい。一方、前脚と後脚の性的二型については、北米産 2 種で有無が分かれている。したがって、脚の性的二型の有無は *Tricolon* 亜属の特徴的な形質ではない。

分布：北海道、本州 (岐阜県)。

雑記。学名および和名は北海道開拓に貢献した榎本武揚 (1836-1908) に由来する。筆者は堀繁久氏採集の北海道白滝村産の雄 1 個体のみで新種記載した (Hoshina, 2009)。その後同氏による知床産の雌雄 1 ペアが筆者に提供され、上述の性的二型の有無が明らかになった (Hoshina & Fukuzawa, 2010)。*Tricolon* 亜属が元々北米で記載されたことから、筆者はエノモトヒゲブトチビシデムシを北

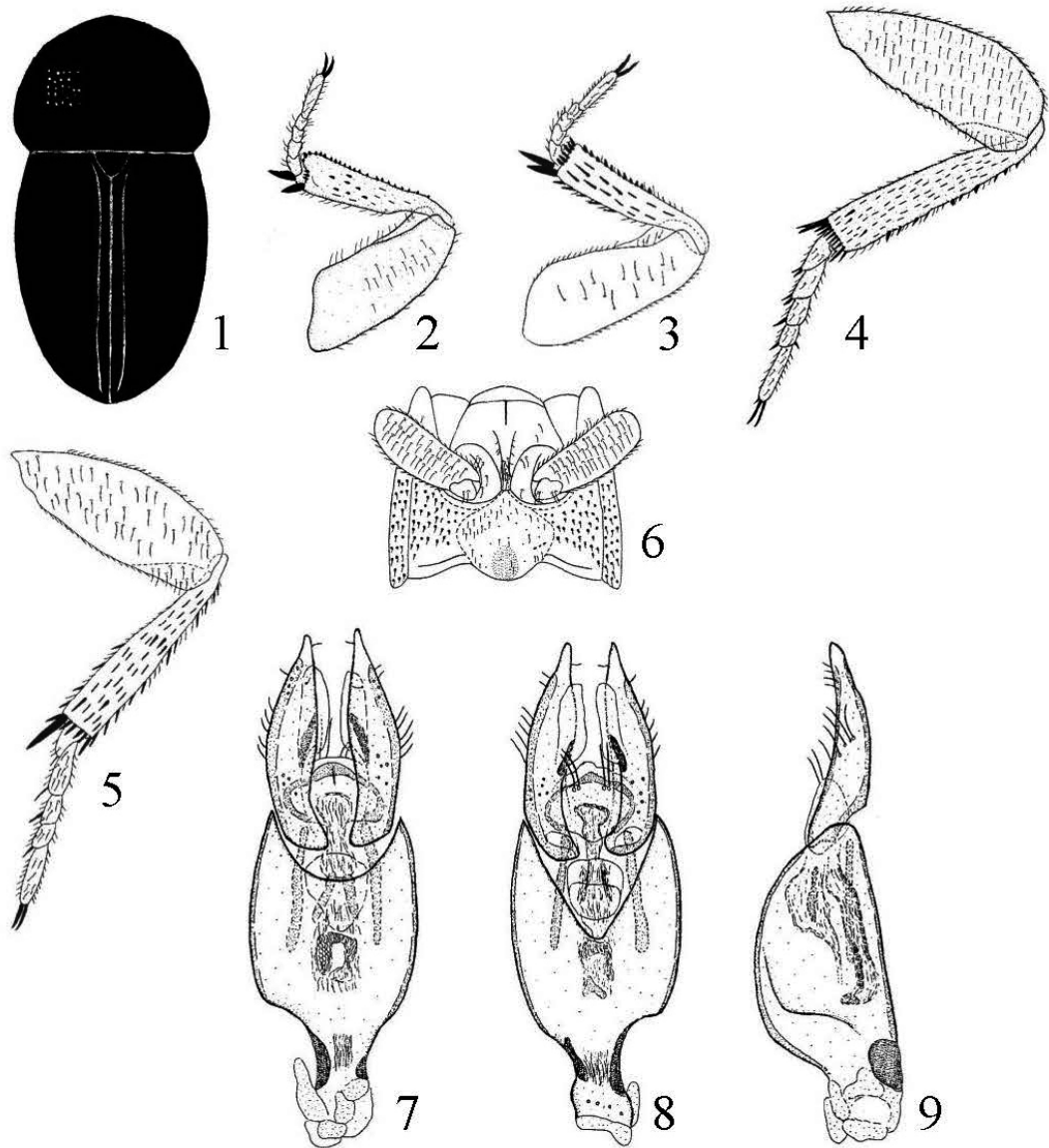


図1-9. エノモトヒゲトチビシデムシ *Colon (Tricolon) enomotoi*. 1, 体全体; 2, 雄前脚; 3, 雌前脚; 4, 雄後脚; 5, 雌後脚; 6, 中胸腹板および後胸腹板; 7-9, 雄交尾器 (それぞれ腹側, 背側, 横側). 図3と5は Hoshina & Fukuzawa (2010), それ以外は Hoshina (2009) より.

北海道固有の寒冷地の甲虫とばかり思い込んでいた。しかし、その後豊島健太郎氏によって岐阜県高山市産1雄が捕獲された (Hoshina, 2012)。つまり、エノモト〜との学名および和名は全く意味をなさなくなってしまった。

#### *Colon* 属 *Colon* 亜属

*Colon* 亜属所属の日本産種は2種のみで、日本産 *Colon* 属の大半は本連載 (IV) 以降で扱う *Myloechus*

亜属に含まれる。なお、*Colon* 亜属は基亜属でありながら所属種数が少ないと言うのは日本だけではなく世界的な傾向である。例えば、旧北区には *Colon* 属全体で約70種が分布するが、うち *Colon* 亜属は7種に過ぎない (Perreau, 2015)。

*Colon* 亜属の最大の形態的特徴は前脚附節が棒状との点である (図11, 18, 19)。この形質については上述の *Tricolon* 亜属と同様であるが、*Tricolon* 亜属とは異なり触角第8節と第9節はほぼ同じ大きさで、先端4節が球桿部を構成することで区別でき

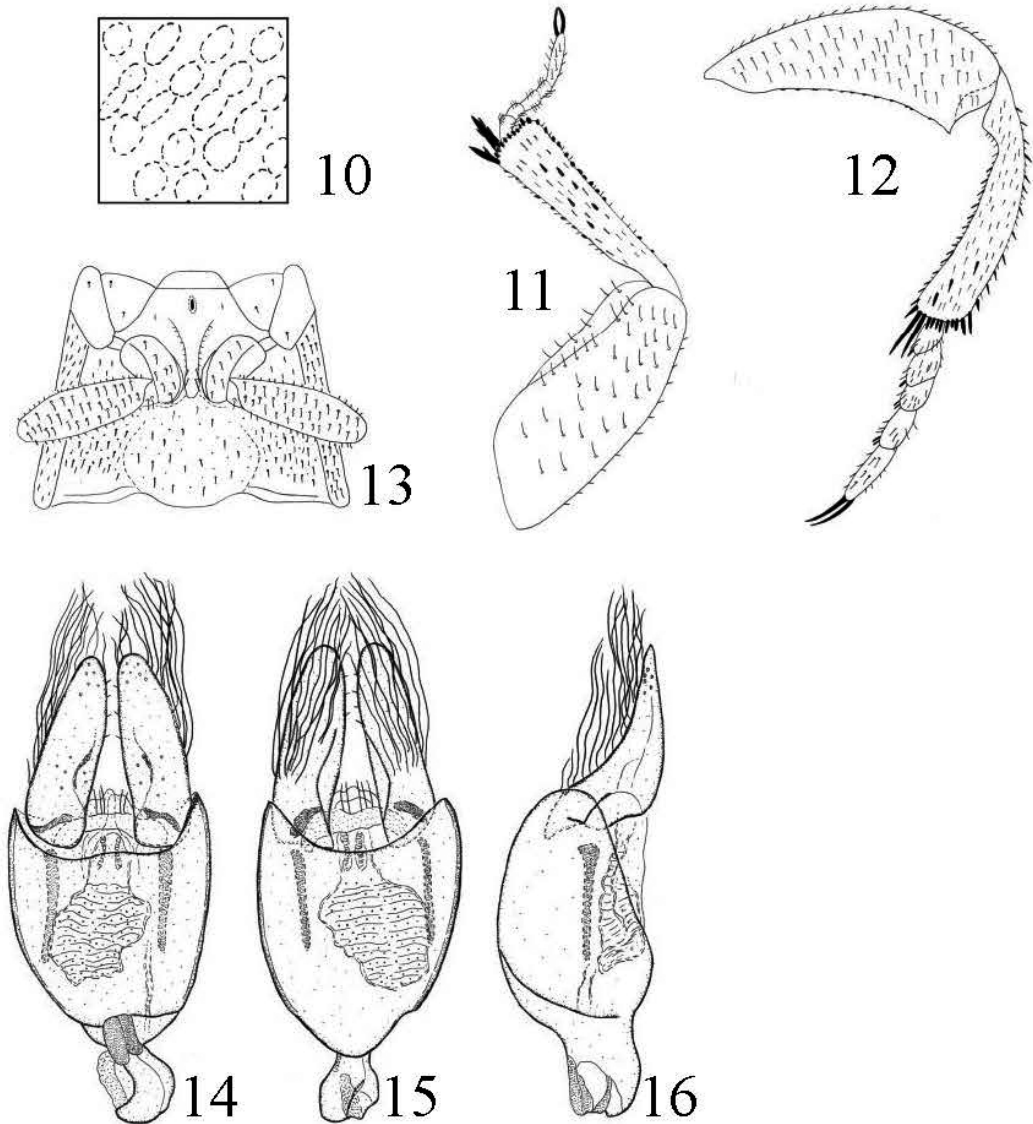


図10-16. ヒダヒゲブトチビシテムシ *Colon (Colon) toyoshimai*. 1, 前胸背板の点刻; 11, 雄前脚; 12, 雄後脚; 13, 中胸腹板および後胸腹板; 14-16, 雄交尾器 (それぞれ腹側, 背側, 横側). 図は Hoshina (2012) より.

る (要説 (II) を参照).

以下, 日本産 2 種の検索表を付す. ヒダヒゲブトチビシテムシが雄 1 頭のみで記載された種なので, 主に雄に限定した検索表となること御了承いただきたい.

#### *Colon* 亜属の種の検索表

- 1) 前胸背板の点刻は所々で接合する (図10). 雄後腿節は基部から先端方向へ全体的に広がり, 後縁には微粒のこぶが並び, 先端近くで後方

へ大きく突出する. 雄後腿節は基部近くに内部方向への三角形の突起を持つ (図12). 雄交尾器の側片は太く (図14, 15), 背側に長く密な毛を持つ (図16) .....ヒダヒゲブトチビシテムシ *C. (C.) toyoshimai* Hoshina, 2012  
 - 前胸背板の点刻はだいたいにおいて独立している. 後腿節は基部近くから先端まで幅は大きくは変わらない (図20-22). 雄後腿節は後縁に角状の突起を持つ (図20, 21). 後腿節は雄雌ともほぼ直線状 (図20, 22).



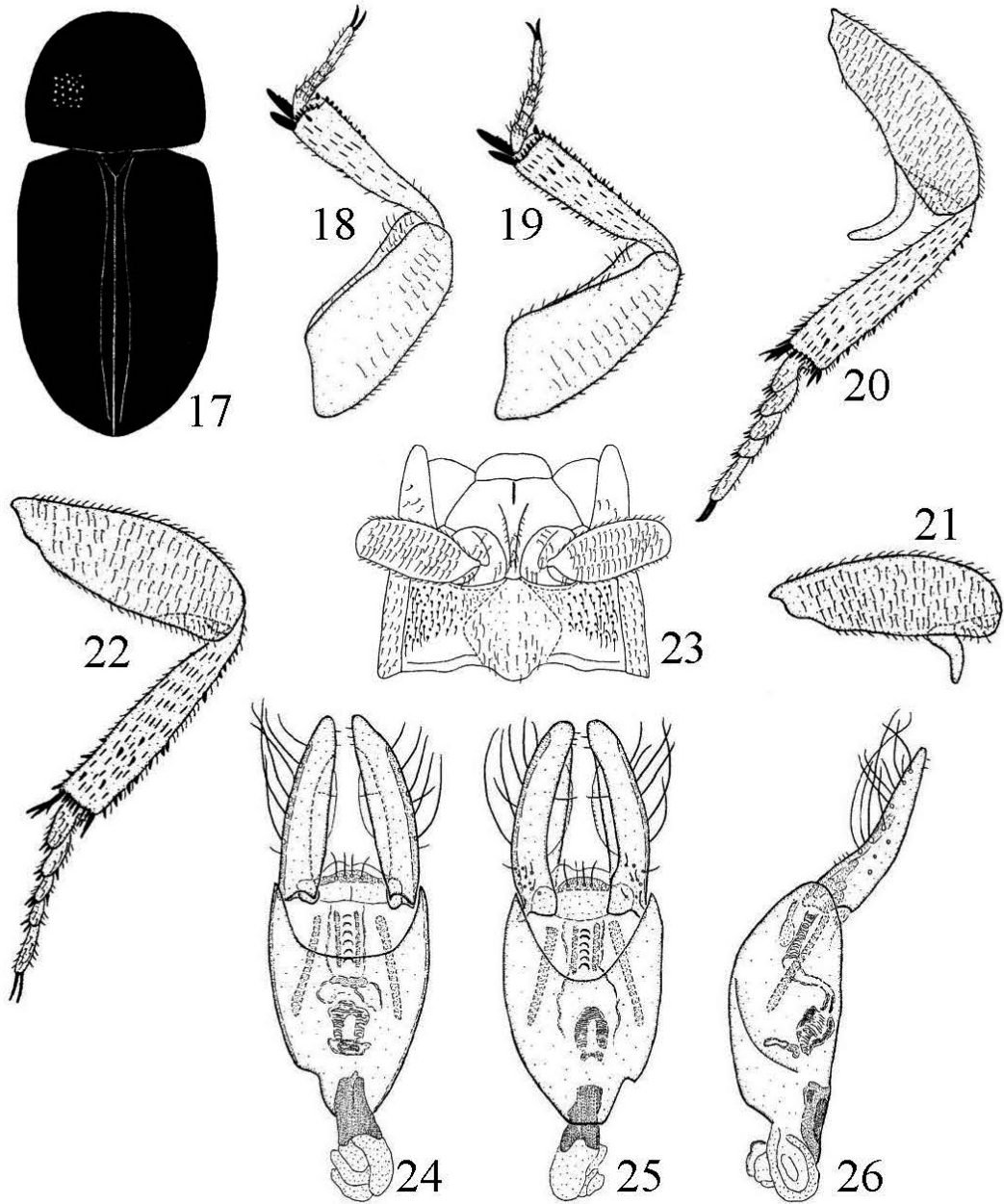


図 17-26. アワヒゲブトチビシデムシ *Colon (Colon) yoshidai*. 17, 体全体; 18, 雄前脚; 19, 雌前脚; 20, 雄後脚; 21, 雄後腿節; 22, 雌後脚; 23, 中胸腹板および後胸腹板; 24-26, 雄交尾器 (それぞれ腹側, 背側, 横側). 図はHoshina (2009) より.

雄交尾器の側片は前種と比べると細く (図 24, 25), 毛は疎 (図26) .....アワヒゲブトチビシデムシ *C. (C.) yoshidai* Hoshina, 2009

ヒダヒゲブトチビシデムシ *Colon (Colon) toyoshimai* Hoshina, 2012 (図 10-16)

体長 3.3 mm で背面は黒色. 前胸背板の幅は上翅よりやや狭い. 前胸背板の形は半球形で, それぞれの点刻は所々で接合している (図 10). 前脛節はほぼ真っすぐで目立った特徴はない. そのほかの前脚と後脚, 雄交尾器の形状については検索表に書いた通り. 後胸腹板中央五角形部分の点刻は小

さくて疎 (図 13)。

なお、本種は雄 1 頭しか捕獲されておらず、雄後腿節と雄後脛節の突起の形状についてはかなりの変異が存在する可能性は少なくない。ヒゲブトチビシデムシ類の雄後脚の形態の個体変異が非常に激しいことは要説 (I) で述べた通りである (保科, 2016a)。

分布：本州 (岐阜)。

注記。学名は本種の採集者である豊島健太郎氏に由来する。

**アワヒゲブトチビシデムシ *Colon (Colon) yoshidai*  
Hoshina, 2009 (図 17–26)**

体長 2.3–3.0 mm で背面は褐色か濃褐色。前胸背板の幅は上翅よりやや狭い。前胸背板の形は半球形で性的二型はなく、それぞれの点刻はだいたいにおいて独立している。前脛節は雌雄ともほぼ真つすぐで目立った特徴はない。一方、後脚には明瞭な性的二型が出る。雄後腿節の角状の突起は雄間で著しい個体変異がある。ある雄では三日月状となり (図 20)、またある雄では短い (図 21)。そのほかの前脚と後脚、雄交尾器の形状については検索表に書いた通り。後胸腹板中央五角形部分の点刻は小さくて疎 (図 23)。

なお、背面の色でもって前者のヒダヒゲブトチビシデムシと区別できるとの誘惑にかられるが、前種が 1 個体しか知られていないうえ、アワヒゲブトチビシデムシも 5 頭しか捕られていない珍品なので、色での識別は危険である。

雄交尾器の形だけ見れば本種とエノモトヒゲブトチビシデムシは似ているが、上述の触角の形状のほか、アワヒゲブトチビシデムシの雌雄とも後腿節が相対的に細く、また雄が角状突起を持つものに対し (図 20–22)、エノモトヒゲブトチビシデムシは後腿節が相対的に太く (図 4, 5)、性的二型が見られないことでも区別できる。

分布：四国 (徳島県) と本州 (埼玉県)。

注記。学名は本種の基準標本の採集者である吉

田正隆氏に由来する。原記載以降の本種の追加記録はない。

**訂正予告**

日本産ヒゲブトチビシデムシの概説を執筆するにあたり、筆者は当然のことながら関連文献を見直した。すると過去の自分の論文の中で「うぐう」と言わんばかりの訂正すべき点が見つかった。具体的にはとある種の所属亜属である。お恥ずかしい話で謝罪の言葉もない。また、連載中に未記載種の標本を見る機会も得た。概説連載中に分類体系の変更や日本産種の追加等は好ましくないだろうが、最新の知見を原稿に反映させることを優先したい。

そこで今回の要説 (IV) ではヒゲブトチビシデムシ亜科の属および亜属への検索表 (訂正版) を載せる予定である。また、要説 (II) に掲載した「日本・台湾・韓国産種リスト」は無視していただき、本連載最終回に改めて種リストを再録する。

**引用文献**

- Hoshina, H., 2009. A taxonomic revision of the subfamily Coloninae (Coleoptera: Leiodidae) from Japan and Taiwan. *Tijdschrift voor Entomologie*, 152: 237–286.
- Hoshina, H., 2012. Taxonomic notes on the subfamily Coloninae (Coleoptera, Leiodidae) from Honshu, Japan. *Elytra*, New Series, Tokyo, 2: 69–77.
- Hoshina, H. & T. Fukuzawa, 2010. A contribution to the knowledge of the subfamily Coloninae (Coleoptera, Leiodidae) from Japan. *Japanese Journal of the systematic Entomology*, 16: 5–12.
- 保科英人, 2016a. 日本産ヒゲブトチビシデムシ類要説 (I). さやばねニューシリーズ, (21): 1–7.
- 保科英人, 2016b. 日本産ヒゲブトチビシデムシ類要説 (II). さやばねニューシリーズ, (22): 1–7.
- Peck, S. B. & K. Stephan, 1996. A revision of the genus *Colon* Herbst (Coleoptera; Leiodidae; Coloninae) of North America. *The Canadian Entomologist*, 128: 667–741.
- Perreau, M., 2015. Family Leiodidae, pp. 180–291. Löbl, I. & D. Löbl (eds.). *Catalogue of Palaearctic Coleoptera. Hydrophiloidea-Staphylininoidea. Revised and updated edition. vol. 2/1. 900 pp.* Brill, Leiden, Boston.

(2016 年 9 月 4 日受領, 2016 年 9 月 12 日受理)